



# きあらひらかわ



互いに認め、支えあう、男女(ひと)がきらめく平川市

第13号 平成26年2月28日発行



(写真は「弘南鉄道物語」より)

## 市民一人ひとりが参画する平川市を目指して!

平成26年1月19日(日)平川市文化センターにて、平川市演劇集団「夢ぶたい」(齋藤千恵子会長)による公演「弘南鉄道物語」が上演されました。平川市に本社がある弘南鉄道が誕生した時の人間ドラマが熱演され、会場満員の観衆を魅了していました。

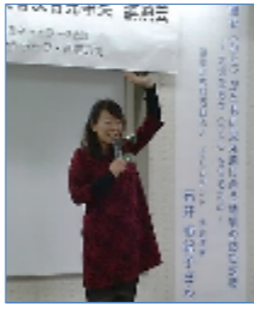
齋藤会長は、「これからも地元スポットをあてた公演を行い、平川市に演劇という文化を根付かせたいので、多くの市民の方と一緒にがんばっていきたいです」と話していました。

「きあら(chiara)」はイタリア語で「光り輝くもの」「よろこびをもたらすもの」を意味します。平川市男女共同参画推進プランの基本理念である「互いに認め、支えあう、男女(ひと)がきらめく平川市」のとおり、輝く未来を見つめながら性別にかかわらず一人ひとりがお互いを認め、自分らしさを十分に生かせる平川市をめざしたいという願いを込めています。

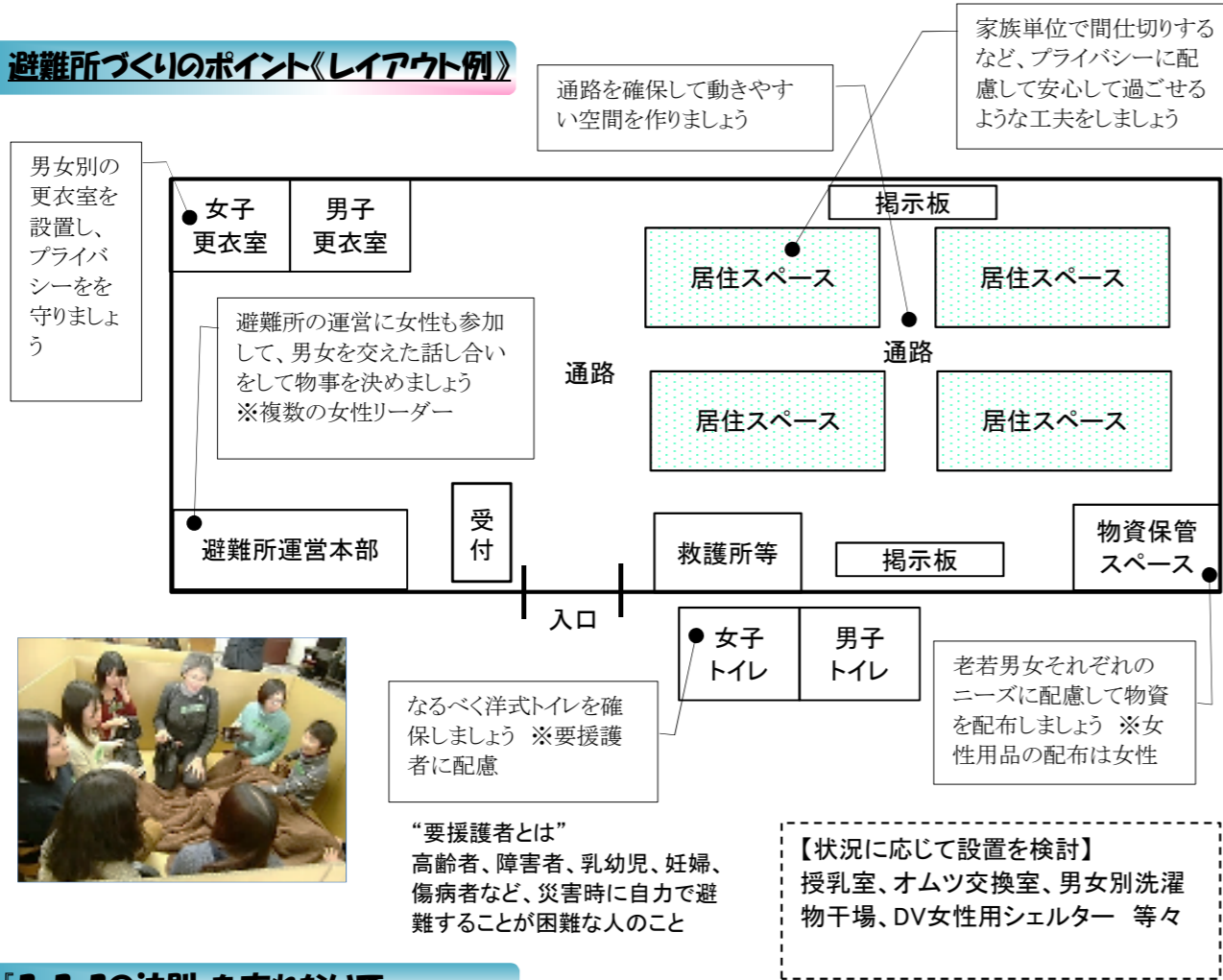
平成25年12月1日（日）平川市文化センターにて、男女共同参画の視点を取り入れた『避難所づくり』をテーマとした講演会と体験学習（企画・運営：男女共同参画ネットワーク・津軽広域）が開催されました。

NPO法人さくらネット代表理事の石井布紀子（いしいふきこ）さんを講師に迎え、午前は講演会「男女（ひと）がともに支え助け合う地域の防災対策～大切な男女（ひと）を守るため～」、午後は避難所づくりの“体験学習”を行いました。約90人の方々が参加され、避難所運営の大切さや災害時の対応等について学んでいました。

参加者からは「災害時における3・3・3の法則が印象に残った」、「みんなで避難所のレイアウトについて意見を出し合い、作り上げたことがためになった」といった感想がありました。



避難所づくりのポイント《レイアウト例》



「3・3・3の法則」を忘れないで・・・

《大規模地震(津波)発災直後の対応》

- (3分) 自分の命を守り、揺れがおさまったら避難しましょう。
  - (30分) 一時集合場所へ集合し、自力で脱出できない方の救助活動を行いましょ。 (優先順位を確認)
  - (3時間) 最も危険な状況の方の生命を守り抜き、専門職につなぎましょう。
  - (3日) 安否確認が終了します。(一人も見逃さないように！)
- ⇒ 初動が大切！日常から状況把握・訓練を！！

《豪雨・台風・土砂災害・竜巻等の直前の対応》

- (3時間前) マスコミや行政から情報を入手し、いつ逃げるのか判断しましょう。
- (30分前) 安全な場所に避難しましょう。
- (3分前) 自分の命を最優先に守りましょう。



平川市ぬくもりメッセージ2013

中学校の部 市長賞  
尾上中学校 2年 笹 楓佳 さん  
思いやる言葉でつなぐ 仲間の輪

小学校の部 市長賞  
栢木小学校 5年 佐藤 由基 さん  
その笑顔 みんなの心の花になる

平川市では、市内の小中学校の児童生徒から、「ひとのやさしさを感じた瞬間」「支え合い・助け合いの大切さ」など、『ぬくもり・きずな』にちなんだ標語を募集しました。市長賞を受賞した作品をご紹介します。

平成25年10月11日（金）から13日（日）に「日本女性会議〈男女共同参画〉2013 あなん」が、徳島県阿南市のスポーツ総合センターで開催されました。

平川市では、市民から日本女性会議への参加希望者を募集し、この会議に派遣しています。今回参加された方の感想をご紹介します。



「日本女性会議へ男女共同参画」  
2013 あなん 開催

「日本女性会議〈男女共同参画2013あなん〉に参加して

平川市男女共同参画推進会議委員 佐藤あつ子さん（みなみの）

今回の会議は、藍染やLED電球の生産量が日本一である阿南市で開催され、2千人を超える参加者のうち男性が2割を占め過去最多とのことでした。受付では小中学生により呈茶が振る舞われるなど、阿南市民が一丸となつての歓迎でした。

1日目は分科会でした。私は食生活改善推進委員の活動に参加していましたので、「食育」をテーマとした分科会を選択しました。食育の実践が、地域の活性化や男女が共に元気に生涯を過ごすまちづくりへと広がっており、食を通じて豊かな人間性を育む「郷土の人・自然・食でつくる絆」であると感じました。特に印象的だったのが、定年後に料理教室に参加したことにより、家族とのコミュニケーションが高まり、今ではボランティア活動に励んでいるという男性の話でした。

2日目は全体会で、午前は地元の子どもたちによるミュージカルでオープンし、記念講演では、徳島県出身の料理研究家 浜内千波さんから「男女が織りなす食育～作り手の心・いただく心～」をテーマに、子どもたちに家事をさせて自立を促すことの大切さや、家庭料理を通じて次世代の担い手に「料理ってこんなに簡単だったんだ」と言ってもらえるようなメニューの工夫などについて話されました。

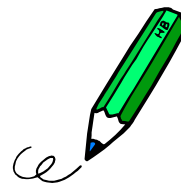
午後の記念シンポジウムでは、日本女性会議30年のあゆみをふり振り返り、現状の問題点を探りました。未来へつなぐためには、女性のみならず男性の視点も取り入れて新たなステージへ進む必要があるとの提言がありました。また、男性にもっと子育てや家事の当事者意識をもってほしいので、まず一人ひとりが始めてみるのが大切であるといった意見が出されました。

今回の経験をいかし、平川市の男女共同参画社会の実現に向けた取り組みにさらに協力できたらと思います。終わりに、今回、日本女性会議に参加できましたことに感謝いたします。

「日本女性会議2014札幌」が10月17日（金）から19日（日）まで札幌市のコンベンションセンターで開催されます。ご興味のある方は市役所へご相談ください。

このコーナーは、いろんな方に、男女共同参画について日頃の思いを書きつづけていただくという企画です。

ペンネーム 「かあちゃん」さん



私には、中学生と小学生の男の子2人の子どもがおります。

上の子が小学生の頃「これからの男の子は料理出来なきゃダメだよ！将来、結婚して奥さんも仕事してると思うから、家事は男の子もやらないとね。やってくれると奥さんとっても助かるのよ」と子どもに話しました。

私の旦那さまは、私が仕事で帰りが遅い時や休みの日など、料理を作ってくれます。とても助かっているのですが、子どもたちにも旦那さまのような大人になって欲しいなと思い、話しました。

子どもたちは日頃からそんな父を見ているので、「そうだね」と素直に料理と一緒に作るようになりました。

始めは、「手切った！」「油はねた！！」「ヤケドした！！！」など、ハラハラしながら、失敗しながらの料理でしたが、楽しみながらチャレンジしてきました。

この前は子ども2人でギョウザ作りに挑戦！野菜を刻み、肉をこねてタネを作り、皮に上手に包んで、おいしそうに焼き目をつけて焼いてくれました。それに残ったタネでハンバーグまで作ってくれました。とても美味しくてうれしくて感動してしまいました。

次は、「あれ作りたい！これも作ってみたい！！」と子供達も私もワクワクしながら楽しんでます。

今は、男女共同参画社会ということもあり、男性も女性も関係なく、朝早くから夜遅くまで仕事をしていますので、家事は、夫婦や家族で分担して、お互いに協力していかないと大変です。



昔、私のおじいちゃんは仕事や頼まれ事など、なんでも完璧にやろうとする人で、そのためになんにも挑戦して勉強し、ものすごく努力する人でした。そんなおじいちゃんが『人は死ぬまで勉強だんだ』と言っていたのを最近よく思い出します。

大人になっても仕事や子育て、料理や人付き合いなどいろいろ・・・「毎日が本当に勉強」だと思えます。

私は不器用で、何をやっても失敗ばかりです。

でも、これからも旦那さまや子どもたちと一緒に、いろんな事にチャレンジしたり、自分のためにも楽しみながら勉強していきたいと思っています。

○あなたの「男女共同参画川柳」や「コラム」を募集しています！

いただいた作品は「きあらひらかわ」の紙面で紹介します。応募先は次のとおりです。

〒036-0104 平川市柏木町藤山25-6 平川市役所総務課行政改革係(平川市男女共同参画推進会議 事務局)  
TEL:0172-44-1111(内線1353) E-mail:gyoukaku@city.hirakawa.lg.jp